

高校人国記

銀河学院高校(福山市)①

文系理系とも
多方面で活動

銀河学院正門。右が高校の教室がある1号館

△創設の経緯▽生徒が急増して多くの生徒が福山市外や岡山県へ通学し、特に女子生徒の門戸が狭かったため、実業家で福山市議会議員などを歴任した門田武雄が1980(昭和55)年、福山女子高校を開設。

△校名の由来▽理事長門田武雄が北アルプス白馬岳山頂から見た銀河などをヒントに97(平成9)年、併設した中学校の校名に。翌年は高校名、10年後、学校法人名も銀河学院とした。

△独特の施設▽校内には箏曲、茶道部のための紅梅苑や剣道の授業のための求真道場が、校外には2カ所に研修センターがある。



オーボエ奏者 志茂嘉彦

ドイツ・ニーダーライン交響楽団で首席オーボエ奏者を務める志茂嘉彦(34)は、1997(平成9)年に開設された中学校の1期生。吹奏楽部でオーボエと出会い、高校3年の夏休み明け、音楽で生きていくことを真剣に考え始めた。「オーボエを演奏することで何かを伝えることができる、その喜びや幸せを肌で感じ、将来の夢を確信しました」

東京芸術大を卒業してドイツへ留学。デュッセルドルフ・ロバート・シューマン音楽大の「国家演奏家資格課程」を首席で卒業し、ドイツを拠点に欧州各地で演奏活動をしている。

「吹奏楽部では泣いたり落ち込んだりといういろいろなことがありました。でもクラブ活動で得た『みんなで一緒に一つの音楽を作り上げる感動』を持ち続けて生きてきました。精神力、忍耐力、人間関係も含め、人生の基盤を学びました」



金崎剛志

やはり中学1期生の金崎剛志(34)は対照的に法学の道へ。東京大大学院博士課程を経て首都大学東京で法学部准教授。「高校では授業以上の内容を学びたいと希望すると、数学などの先生が個別に問題を与えてくれました。そんな

ドイツを拠点に欧州各地で演奏

経験から『この問題を解くにはどの公式が役立つのか』といった、通り一遍の勉強だけでなく、『その公式はどのようにして作られたか』といった根本的なことを考えるようになりました。『自分のやりたい勉強しかない問題見だっただけかもしれないけれど、数学の先生などはかなり自由に勉強させてくれたのが印象深かった』と振り返る。



山田康平

志茂や金崎と同期の山田康平(34)は東京大、大阪大大学院へ進み、今は横浜市内で弁護士。「高校時代、欧州への研修旅行の事前準備で、EU(欧州連合)各国と日本の法制度を比較しながら学んだこと」が法曹界へのきっかけになった。弁護士として「具体的な事件の処理を通じて、社会制度や法制度に内在する問題点をあぶり出し、より良い社会の実現に貢献すること」を目指す。

「普通科高校として文系理系のどちらにも力を入れ、学校行事や部活動にも力を注いでいるので、卒業生はさまざまな職種に就いています」とは同窓会長で福山市立済美中教諭の熊谷忠義(36)。自身は陸上部で恩師から「自分を高めるにはどうすべきか」を教えられ、教育の道に進んだ。

熊谷の言葉通り、卒業生は地元企業や官庁など多方面に進んだ。動画投稿サイトなどで大きな影響力を持つインフルエンサーを媒介に若者層へアプローチするベンチャー企業のマネジャーがいる。国際認定エステティシャンやローカル歌手も。福山市の観光アシスタント「ローズ福山」や倉敷市の観光PRを担う「倉敷小町」の経験者もいる。

東慧悟(32)は、サッカーチーム「FCバイエルン ツネイシ」が昨年4月に立ち上げたジュニアチームの監督。サッカーを通じて人間性豊かな人材を育成することを目指し、小学3、4年生22人を指導する。高校時代、サッカー部監督から「自分からサッカーをなくしたら何が残

自由に勉強させてくれたのが印象深かった



東慧悟

るか」が大事だと教えられた。その経験から「自分のことは自分でする」「自分の意見を言える」「人の話を聞ける」などを教えている。子どもたちが家や学校で「自分からやろうとすることが増えた」という声を聞くのが「最もうれしい」と語る。



福田和真

福田和真(30)は福山市のランニング教室「走健塾」のコーチ。主に小学生約90人を指導している。記録を更新した子や目標を達成した子を見るのが喜び。「全国、そして世界へ羽ばたく選手が出てほしいけれど、一番は好きなことを全力で楽しんでほしい」

中学時代に始めた陸上競技を一度はやめようと思ったが、高校時代の「熱心な顧問の先生や先輩」のおかげで思いとどまった。だから、後輩には訴える。「自分が楽しいと思うことを突き進めば必ずやり続けてよかったと思うことがある。それは一生を通じての楽しみや価値に変わるのです」

(客員編集委員・富沢佐一)

銀河学院高校は今回で終わります。次回20日に若国総合高校を掲載します。

「高校人国記」は広島、山口両県を中心に回って、高校ごとに話題の卒業生を紹介していきます。各校の情報をメールなどでお寄せください。宛先は〒730-0867 広島市中区土橋町7-1、中国新聞編集局「高校人国記」係。メールは、bokou@chugoku-np.co.jp